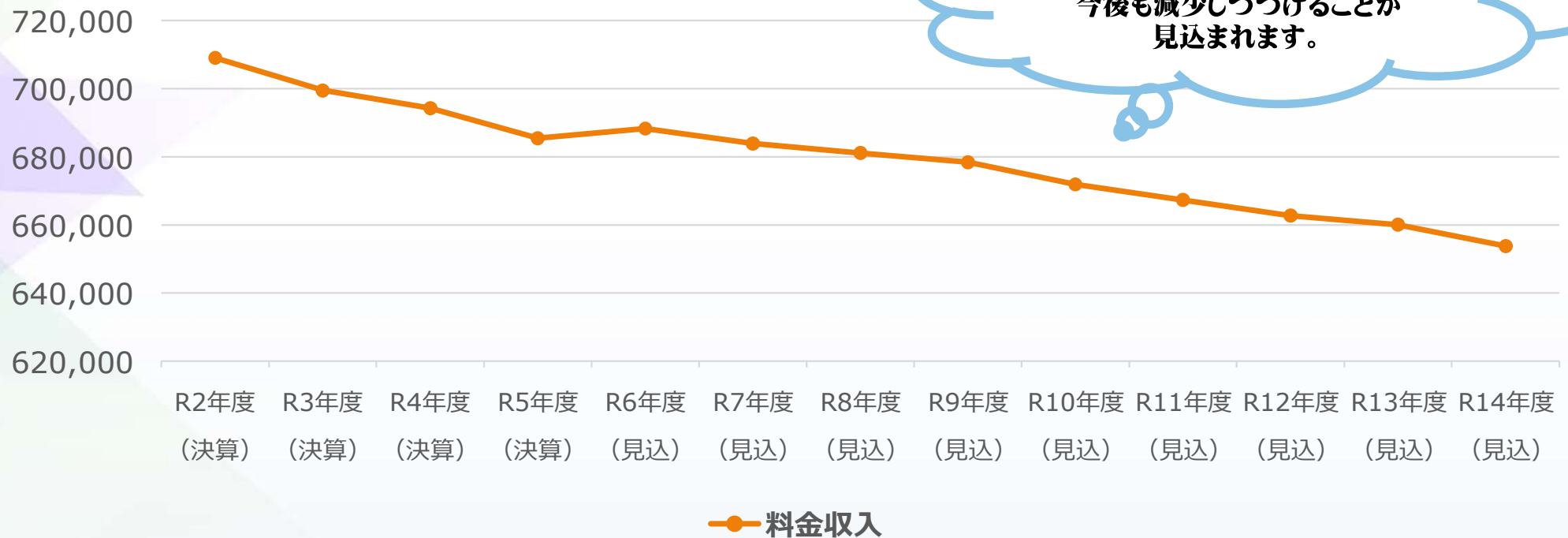


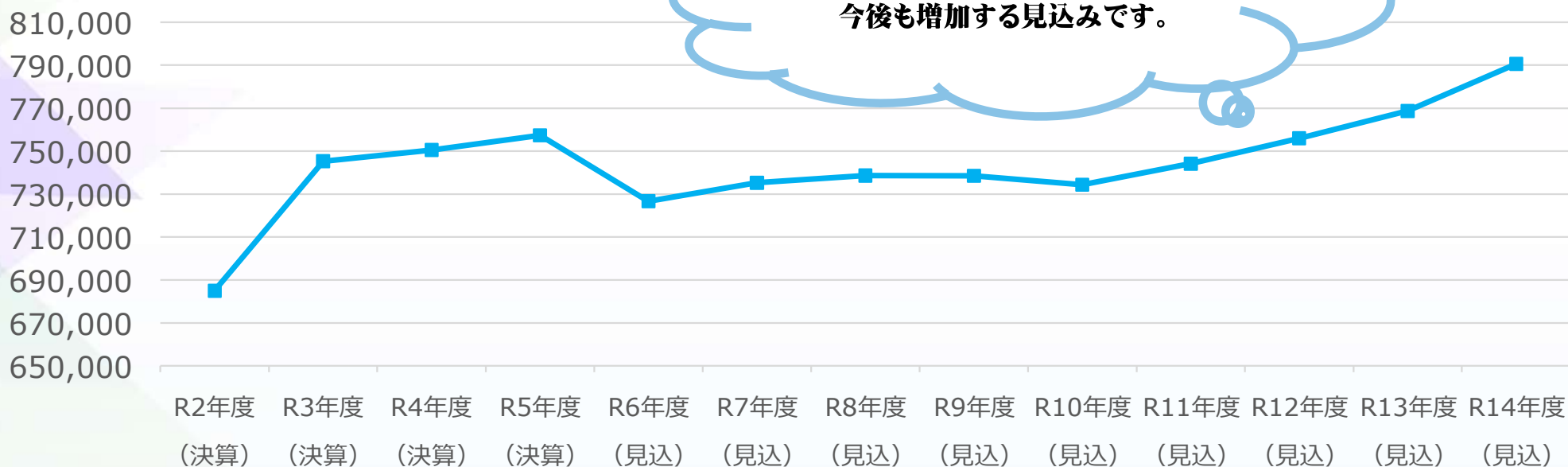
料金収入の見通し

(単位：千円)



給水収益で賄うべき経費の見通し

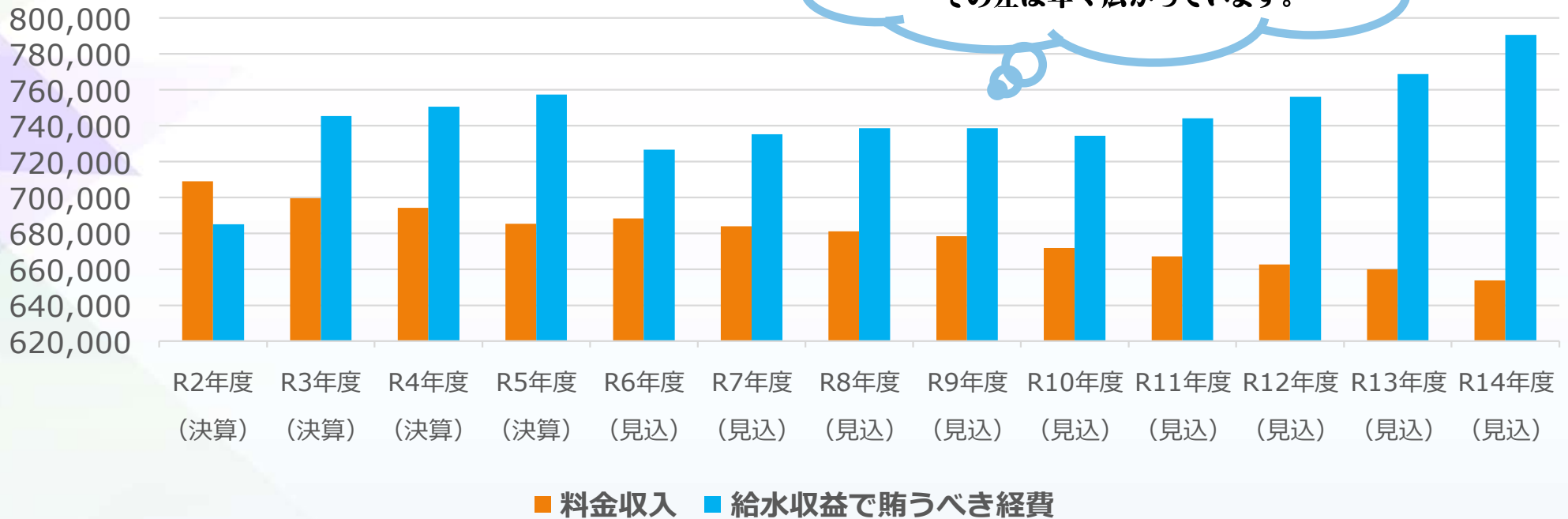
(単位：千円)



■ 給水収益で賄うべき経費

料金収入と経費の比較

(単位：千円)



料金回収率

- 料金回収率とは、給水に係る費用を、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標です。
- 本市の場合、数値が100%を下回っており、給水に係る費用を料金収入で賄えていないため、適正な料金収入の確保及び経費の削減が必要です。
- 現状でも維持管理に係る経費が大半を占めており、これ以上の経費削減は困難な状況です。

過去3年の決算数値

- R3決算 93.86%
- R4決算 92.50%
- R5決算 90.51%

→年々、経営状況は悪化

供給単価と給水原価

- 供給単価とは、 1m^3 当たりの料金収入を表した指標です。
- 給水原価とは、 1m^3 当たりの給水に係るコストを表した指標です。
- 本市の場合、給水原価が供給単価を上回っており、料金収入よりも水を作って配るための費用のほうが高くなっている状況です。

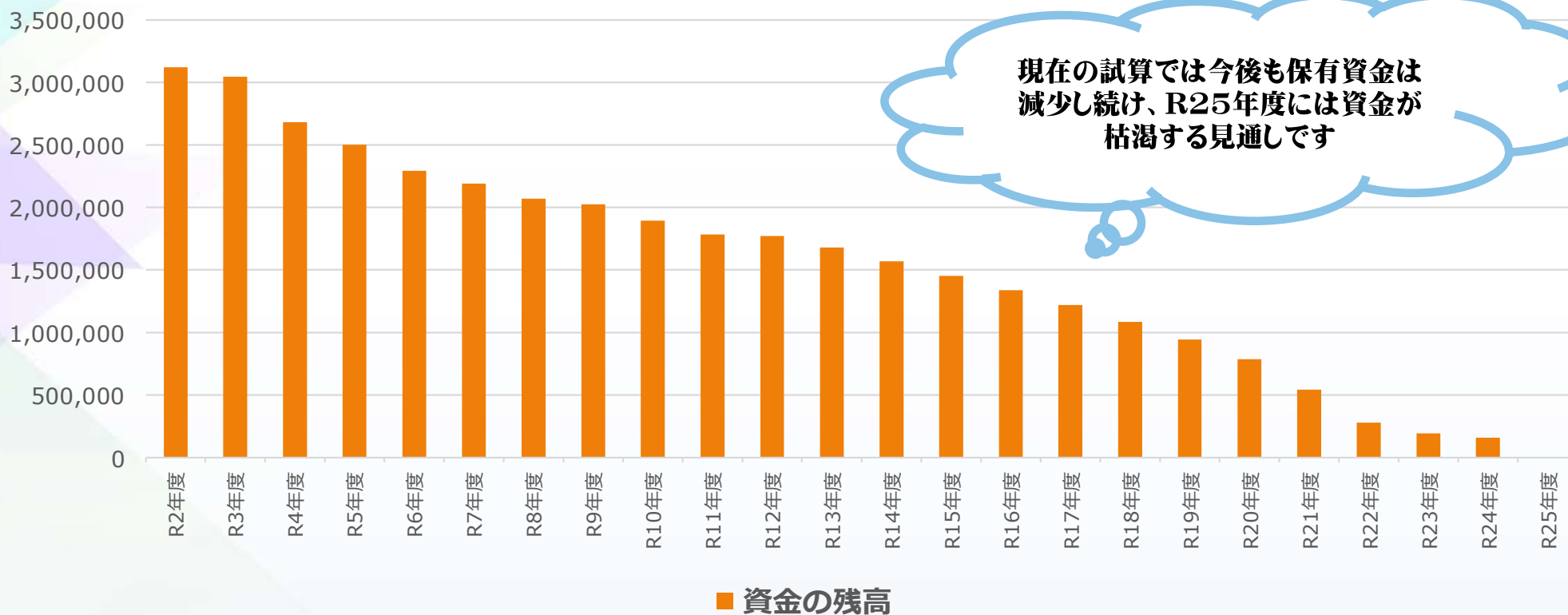
→ つまり、「原価割れ」の状態です

供給単価と給水原価

	供給単価	給水原価	1m ³ 当たりの損益
● R3決算	183.42円	195.41円	△ 11.99円
● R4決算	183.74円	198.64円	△ 14.90円
● R5決算	184.45円	203.80円	△ 19.35円

保有資金(現金)の見通し

(単位：千円)



今後の水道事業経営

- 人口減少等により給水収益は減少している
- 物価高騰により維持管理経費は増加している
- 老朽化した管路・施設の大量更新の時期に差し掛かっている
- 耐震化など施設の機能向上が求められている

→ 今後さらに経営状況が厳しくなることが予想されるため、事業を継続していくためには、事務事業の見直しや、経費削減による経営努力を行うことが大前提ですが、
適正な料金水準について検討する必要があります。